

企業事例 16

従業員の体力や生活面のニーズに合わせ、
13種類の勤務時間を選択できる仕組みづくり

◆会社概要◆

本社 徳島県
創業 昭和42年
従業員数 95名
事業内容 ビルメンテナンス、機内清掃 等

1. 取組みの経緯

同社が、13種類にもおよぶ多様な働き方の選択肢を整備し導入した狙いは、①高齢者社会の問題を先取りして地場の企業として地域社会に寄与できる、②労働意欲が高く、優秀かつ責任感の強い人材を採用して職場の活性化を図ることができる、と考えたからである。

また、社会的要因、業務上の要因、従業員のニーズからも、制度導入の必要性があった。

社会的要因とは、地域の高齢化問題である。同社の社長は、労働市場における高齢者と若年者の折り合いをどのように付けるかに強い関心を持っていた。さらに、数年後に定年を迎える団塊の世代は、労働意欲、体力ともに高い。これらの労働力を活用して高齢社会の問題を先取りし、地場の企業として地域社会にいかに関与するかが重要であると考えた。

業務上の要因とは、業務の拡大である。同社の事業は、顧客の時間的ニーズにいかに対応できるかが重要であるため、顧客のニーズと各業務内容に合わせて勤務時間を設定し、効率的に労働力を確保・活

用していく必要がある。

従業員のニーズとは、高齢者はフルタイムではなく適度に働き、相応の収入を確保したいとの要望が高いことである。

これらの必要性から、同社は、13種類にもおよぶ多様な働き方の選択肢を従業員に提供することとした。

2. 取組みの状況

まず、同社は、平成18年4月1日からの改正高年齢者等雇用安定法の施行に先んじて、定年年齢を65歳まで引き上げた。これは、「顧客の信頼を継続的に得ることができる」という判断もあったからである。ちなみに、同社の60歳以上の従業員は21人である。

つぎに、勤務時間の短縮を行った。午後の休憩時間を10分増やし、終業時刻を30分早めて1日あたりの勤務時間を7時間20分から6時間40分としている。さらに、勤務場所とその業務内容により1日あたり2時間の勤務や4時間半の勤務など、始業時間と終業時間を複数設定した。これには、65歳定年制を円滑に実施するために、従業員一人ひとりが能力、体力、

生活ニーズに応じて働き方を選択できることが不可欠だからである。

さらに、同社では、教育訓練や肉体的負担をかけないようなハード面での改善などに取り組んでいる。

これらの取組みは、各現場の担当業務責任者を集めた会議で検討されたが、これは、同社が病院や空港ターミナルなど公共性の高い建物の清掃業務を請け負っていることから、「顧客の信頼性を持続するためにはどうすべきか」という議論から始まっている。

定年年齢の引き上げは、人件費の増大につながるなどの懸念もあったが、コスト高になっても顧客の信用を継続的に得ていくことが重要との経営判断により実施されている。

13種類の勤務時間

勤務地	業務内容	始業時刻	終業時刻	勤務時間
病院	清掃業務	① 8:00	16:30	6時間40分
	清掃業務(障害者)	② 8:00	15:00	5時間40分
	リネン検収業務	③ 8:30	17:00	6時間40分
	当直業務	④ 17:00	8:30	7時間
	食器洗浄業務	⑤ 9:00	16:00	5時間10分
		⑥ 18:30	20:30	2時間
	電話案内業務	⑦ 8:00	14:30	4時間30分
空港	清掃業務	⑧ 14:30	21:00	4時間30分
	夜間機内清掃業務	⑨ 8:00	16:30	6時間40分
競艇場	清掃業務	⑩ 9:00	17:00	6時間
		⑪ 8:00	10:00	2時間
		⑫ 16:00	18:00	2時間
		⑬ 8:00 16:00	10:00 18:00	4時間

3. 取組みの効果

各従業員が各自の体力、ライフスタイル、ライフプランに応じて働き方を選択しているため労働意欲は高い。また、各職場・業務内容に応じて労働時間を設定しているため、時間内に必要作業は終了し、業務上の支障は出ていない。

各現場には、作業内容ごとに「作業分解表」があり、これに基づいて作業内容に必要な時間内で業務を完結できるようになっているため、基本的には残業が発生しない仕組みとなっている。

また、同制度導入により労働意欲が高く、責任感が強い人材が多数応募してくるため、いい人材の中から従業員を採用でき、質の高い従業員を確保することも同制度の効果と同社は考えている。

4. 今後の課題

多様な労働時間を設けたことにより、現場責任者のシフト編成が複雑化し、雇用管理が煩雑化している。

シフト編成は、フルタイム勤務の従業員を基準に作成したのち、パート従業員を当て込む形で行うが、各自の希望に応じて変更する際の代替者確保が難しい。基本的には同一現場内でやりくりするものの、対応できない場合は市内のビルに常駐する清掃員として確保している代替要員を充てる。しかし、同社では、これらの要員確保は人員コストに大きく影響するため、シフト編成の煩雑化については今後の課題としている。